

報告書

パートナーシップ・ミーティング 2017

【会期】 2017年7月30日（日）

【会場】 浜松市市民協働センター 全館

【主催】 浜松市市民協働センター

【共催】 ふじのくに西部 NPO 活動センター（静岡県）

開催趣旨

社会情勢の変化や全国的な人口減少、ライフスタイルの多様化により、地域課題はますます複雑化・細分化しており、個別の組織だけでは十分に対応できない状況となっている。こうした課題を解決するための手段として、市民活動団体や地縁組織（自治会等）、企業、学校、行政等の協働による取り組みに大きな期待が寄せられている。

今回は、地域づくりに取り組む多様な主体が、分野や職種を超えて情報交換やノウハウを共有する交流の場を提供し、協働推進の第一歩として信頼関係のあるネットワークの構築を目指す。

また、各プログラムを通して「これからの社会で求められる組織のあり方」「新しい価値を創出する協働の形」など、地域に関わる本質的な意味を見つめ直すきっかけや、今後の組織運営のヒントを提供する。

なお、イベントの開催にあたり、市内参加団体等が広域的連携を図ることができるよう、ふじのくに西部 NPO 活動センター（静岡県）と協力し、開催する。

概 要

- 【日 時】 2017年7月30日（日）
- 【会 場】 浜松市市民協働センター 全館
（〒430-0929 浜松市中区中央1丁目13番3号）
- 【参加費】 無料
- 【対 象】 静岡県西部地域の市民活動団体、企業、行政、一般市民 他
- 【参加者数】 178名（出展団体44団体（123名）、一般来場者55名）
- 【主 催】 浜松市市民協働センター
- 【共 催】 ふじのくに西部 NPO 活動センター（静岡県）

実施内容・成果

基調講演

『地域を変える！ 協働によるまちづくり』

登壇者：渡辺 豊博 氏（特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 専務理事）

時間：10:45～12:15 会場：第1・2研修室 聴講者：74名

＜実施内容・成果＞

市民・企業・行政と協働しながら地域の環境改善に取り組む「NPO 法人グラウンドワーク三島」の渡辺氏を講師に招き、協働の意義や、社会を変えるために求められる姿勢について講演していただいた。

講師の渡辺氏は、水辺のゴミ拾いから始まった同 NPO の活動により、三島市民が誇りを取り戻し、やがて「水の都・三島」としてまち全体へ波及効果を及ぼしていった事例を紹介し、「地道な活動の積み重ねが、社会を変える礎となる」と語った。また、活動を「点から線へ」「線から面へ」発展させていくためには、協働の仕組みをつくり、組織力を高めて持続した活動にしていくことが求められると伝えた。

市民主体のまちづくりの必要性が高まる中、NPO は今後ますます重要な役割を担っていくと予想される。一方で、人的・金銭的に厳しい運営状態の NPO 法人が多い現状に触れ、今後は、NPO の潜在力や可能性を社会に示し公益性を高めると共に、ビジネスの視点を取り入れた運営を行い、持続性のある組織へと強化していくことが必要とアドバイスした。

また、協働にもルールがあり、相手の立場に立って事業提案をしなければ取り合ってもらえず、対等な関係を築くことも難しいと現実の厳しさを語った。NPO においては、地域に密着した住民目線の取り組みを通して、企業や行政とも違う独自性を生み出していくことが、対等性の獲得へとつながると活動のヒントを伝えた。

聴講者のアンケートには『活動で生かすヒントをたくさんいただいた』『未来につながるビジョンを持つ機会になった』等の感想が見られ、組織運営に活かすヒントを聴講者に伝えることができた。今後の団体運営に活かしたいと相談に来る方もおり、持続的な組織にするための具体的な行動にもつなげることができた。



講師の渡辺豊博氏



熱心に耳を傾ける聴講者



質疑応答の様子

ランチトークセッション

『“浜松で活躍する女性” にインタビュー』

ゲスト：北 智美 氏（大和ハウス工業株式会社）

ホザンジェラ 岩瀬 マルチンス 氏（株式会社 イワセロ マネジメントオフィス）

進行：新堂 正実 氏（メルセデス・ベンツ浜松南 株式会社シュテルン浜松）

時間：12:30～13:10 会場：2階 アトリエ 聴講者：34名

《実施内容・成果》

浜松で活躍する2人の女性をゲストに迎え、多くの人を巻き込む事業運営のコツについてトークセッションを行った。ゲストの取り組み事例を基に、SNSを活用した情報拡散や集客のポイント、日頃の活動の中でつながりを広げ、仲間を増やしていく大切さなど、継続的な事業運営につなげるノウハウについてお話ししていただいた。聴講者からは、『活動を拡大する際に必要な情報発信について勉強になった』などの感想が聞かれ、実践的な手法を学ぶ機会となった。

トークセッション後半では、進行役の新堂氏が聴講者へのインタビューを交えながら、参加者同士の情報共有や相互交流を促進した。



（左）北氏（中央）ホザンジェラ氏（右）新堂氏



ランチトークセッションの様子

【ゲストプロフィール】

■北 智美 氏（大和ハウス工業株式会社）

マーケットイベント『仮題 1日だけの遊園地』を年に数回実施している。ハンドメイド商品を扱う店舗が多数出展するため、特に女性から人気を博している。始めたきっかけは、『大和ハウス工業』の存在や建物の場所をもっと知ってもらいたいという思いから。今ではInstagramやfacebook, twitterなどのSNSを駆使し、車の渋滞ができるほどのイベントとなっている。

■ホザンジェラ 岩瀬 マルチンス 氏（株式会社 イワセロ マネジメントオフィス）

日本に来て20年以上経ち、大学等で外国語を教える活動を精力的に実施している。現在は地域のゴミ問題について、課題を感じており、住民の力で解決しようと動き始めている。

協働事例発表

■事例1 『企業とNPOの雑穀共同プロジェクト』

発表/NPO 法人こいねみさくぼ、有限会社春華堂

■事例2 『まちまるごと健康計画！地域住民主体の新しい介護予防』

発表/羽立工業株式会社

時間：13:30～14:50 会場：第1・2研修室 聴講者：39名

《実施内容・成果》

それぞれの専門分野やノウハウを活かしながら、良好なパートナーシップを築いている2つの協働事例の発表を行った。

NPO 法人こいねみさくぼと有限会社春華堂が取り組む『雑穀共同プロジェクト』では、天竜区水窪町の在来作物である雑穀を共同で栽培し、和菓子として商品化・販売に取り組んでいる。発表では、それぞれの強みや独自性を組み合わせることで、安心・安全でオリジナリティのある商品が実現しただけでなく、過疎が進む中山間地域の活気にもつながっていると、協働の効果について語った。また、協働事業を円滑に進める上では、顔の見える信頼関係を地道に築いていくことも重要と伝えた。

羽立工業株式会社は、健康増進のための介護予防プログラムを全国の自治体と協働で実施している。地域住民がプログラムを受けるだけでなく、指導者にもなれる養成講座も組み合わせた点が特徴で、市民がより身近な場所で健康増進の活動に参加できる地域づくりを目指している。発表を行った原田氏は、社会課題の解決を目指し社会を変えていくためには、単に事業をこなすだけではなく、地域への波及効果を見据えた仕組みにすることが重要と語った。

聴講者からは、「取り組みの紹介が分かりやすかった」「浜松で身近な企業がNPOと協働で、浜松を世界に発信していることを聞いて大変良かった」などの感想をいただき、身近なNPOや企業の協働事例を知っていただくことができた。また、聴講後に協働の可能性について発表団体と話し合う聴講者の姿も見られ、新たなつながりを作るきっかけとなった。



羽立工業株式会社の発表の様子



NPO 法人こいね水窪と有限会社春華堂の発表の様子

ポスターセッション

時 間：10:00～16:45（※スタッフ常駐 PR タイム 15:00～16:00）

会 場：2階 アトリエ・ギャラリー

参加団体：44 団体（市民活動団体 34、企業 10）

《実施内容・成果》

パートナーシップ・ミーティング 2017 では、ポスターセッション出展団体数 44（対前年+6）、総参加者数 178 名（対前年▲38）となった。今年度は市民活動団体の出展申し込みが多く、交流を求めるニーズが高いことが伺えた。

前年より出展団体数が増加した一方で参加者数が減少した理由については、今年度はより正確な来場者数を把握するため、昨年度まで行っていた「延べ参加者数」での計上をやめ、重複の無いよう「実人数」で計上したためと考えられる。

展示ブースでは、団体パンフレットやポスター、活動写真などが並べられ、各団体の日頃の活動内容や成果について紹介されていた。また、市民活動団体が制作しているオリジナル商品の展示・販売や、体験コーナーを設ける団体も見られ、普段触れる機会の少ない多様な取り組みを知る機会となった。

また、場内の交流をより活発化することを目的に、1 団体 1 分半程度の団体 PR タイムを設けた。各団体の発表を見るために多くの来場者が集まり、会場全体で積極的に交流が行なわれる様子が見られた。

PR タイム終了後には名刺交換や交流が至るところで行なわれており、互いの活動について理解を深めている様子であった。また、協働の可能性について協議を進めている団体の姿もあった。



熱気あふれるPRタイムの様子



会場各地で交流を深める来場者